

都市再生整備計画 事後評価シート
旭川都心地区(2期)
(原 案)

令和元年11月

北海道旭川市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	北海道		市町村名	旭川市		地区名	旭川都心地区(2期)			面積	412ha		
交付期間	平成27年度～令和元年度		事後評価実施時期	令和元年度		交付対象事業費	895百万円	国費率	40%				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
			基幹事業	・道路(14・15丁目間横通線(車道))・公園(宮前公園, 常磐公園)・地域生活基盤施設(シビックコア広場, 案内板)・高質空間形成施設(沿道植栽, 14・15丁目間横通線(歩道), キャノピー)									
	当初計画から削除した事業		事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
			基幹事業	・地域生活基盤施設(市民文化会館改修) ・高次都市施設(市民文化会館改修) ・高質空間形成施設(2・3条間通線, 3条通線)			・新市庁舎建設に伴い文化会館の整備の方向性について建替えを含めた再検討を行うことになったため中止 ・沿線地権者の合意が得られず中止			影響なし			
	新たに追加した事業		提案事業	・地域創造支援事業(高架下運営エリア)			・想定した機能が、周辺土地利用状況から他の土地で代替可能であったことから中止			影響なし			
			基幹事業	・高質空間形成施設(宮下・1条間通線)			・2・3条間通線から箇所変更により追加			影響なし			
交付期間の変更		当初	平成27年度～令和元年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-					
		変更	なし										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	買物公園通行量	人	117,591	H26	120,000	R1	102,585	108,160	△	あり なし	旭川西武閉店などにより通行量は大きく減少したが、再開発事業や地域住民によるソフト事業の動きもあり、徐々にではあるが通行量に回復基調も見られる。整備方針に基づいた事業を進めることで、安心して生活できる都市機能や、賑わいある魅力的な都心空間の創出につながり、目標値を達成することができた。目標達成はできなかったが、文化会館周辺に設置されている、文化芸術ゾーンとも連動し、事業によるソフト事業も合わせ一定の効果はあった。	-
	指標2	都市部居住人口	人	15,946	H26	16,200	R1	16,160	16,212	○	あり なし		-
	指標3	旭川市民文化会館利用者数	人	248,399	H25	270,000	R1	258,603	268,836	△	あり なし		令和2年10月
	指標4										あり なし		
指標5										あり なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	歩行者通行量(イオンモール前)	人	8,150	H29				9,045			本事業や新たな集客施設の効果により、落ち込んでいた数値が徐々に回復基調にある。	-
	その他の数値指標2												
その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況													
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	買物公園通行量調査等によるモニタリング		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				庁内各部資料を用いることで指標の確認を行い事業効果の検証を行う。 今後も市民目線で事業を評価し、賑わいある都心部の形成を目指す。					
	住民参加プロセス	中心市街地活性化に係わる講演会等を開催し、都市再生整備計画とも係わるまちなかでの様々な取組の説明を行い、市民に対し紹介することができた。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				今後も中心市街地でのまちなかの活性化に係わる取組について周知PRを図っていく。					
持続的なまちづくり体制の構築	・北彩都ガーデンスポーター(市民ボランティア)活動の実施 ・中心市街地活性化協議会企画推進分科会によるまちづくり活動の実施		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				今後もサポーターや地域住民をはじめとする市民自らが楽しみや魅力を感じながら活動していけるよう、必要な支援を行っていく。						

旭川都心地区(2期)(北海道旭川市) 都市再生整備計画事業の成果概要						
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値	
【大目標】 道北の拠点都市として、活力ある都心空間を創造する。 目標1: 安心して子育てや生活ができる都市機能の整備(都市機能向上) 目標2: 市民や観光客が交流し、賑わいある都心空間の整備(地域経済発展) 目標3: 魅力ある高質な都心空間の形成(魅力づくり) 目標4: 都市部の交通便利と都市内回遊性の向上(交通便利向上)	買物公園通行量	単位: 人	117,591 H26	120,000 R1	108,160 R1	
	都心部居住人口	単位: 人	15,946 H26	16,200 R1	16,212 R1	
	旭川市民文化会館利用者数	単位: 人	248,399 H25	270,000 R1	268,836 H30	
まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・宮前公園やシビックコア広場の整備により、観光客や地域住民が憩うことのできる魅力的な空間が形成された。 ・キャノピー整備や歩道のバリアフリー化、ロードヒーティング整備等を行うことにより、都心部の交通便利性と回遊性の向上に繋がった。 ・観光客の交流拠点となる道の駅整備や、まちなかにおいてまちゼミやガーデンボランティア等のソフト事業を実施したことにより、人が集う賑わいある都心部の形成につながった。今後はさらに賑わいある都心部とするために地域住民が主体となって展開するソフト事業の発展等が必要。 ・子ども総合相談センターを整備したことで、子育て支援部と教育委員会の相談窓口が統合され、就学前から就学後までの一貫した相談支援体制が構築された。また、プレイルームや地域活動支援スペース整備により市民の交流環境が増強された。 					
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・都心部のシンボリックなエリアや北彩都地区に整備した施設を活かして、さらに多くの観光客が来街し、居住者が増加するように、このエリアが魅力ある高質な都心空間であることを積極的にPRしていく。 ・さらに都市部の交通便利性と回遊性の向上を図るため、引き続き道路などのバリアフリー化等の整備を検討する。 ・都心部の居住者を増加させ活力ある都心部を形成するため、住民が安心して子育てや生活ができるよう、整備した施設等を有効活用していく。 ・市だけではなく地域や民間団体が主催するイベント等が増加するような支援等の検討や、空き店舗出店等の際の支援等を行い、さらに賑わいある都心部を形成する。 					

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	14・15丁目間横通線整備(車道)	34	L=160m	64	L=160m	路盤改良が必要となったため事業費増	影響なし	●	
公園	宮前公園整備	30	A=0.2ha	46	A=0.2ha	当初予定していなかった管理施設が必要となったため事業費増	影響なし	●	
公園	常磐公園整備	98	A=0.5ha	68	A=0.5ha	設計に市民ワークショップの意見を反映させ事業費減	影響なし	●	
地域生活基盤施設	シビックコア広場整備	181	A=3ha	144	A=3ha	コスト縮減による事業費減	影響なし	●	
地域生活基盤施設	案内板整備	10	5基	5	3基	事業箇所の見直しによる事業費減	影響なし	●	
地域生活基盤施設	市民文化会館改修	501	A=12,400㎡	0	A=0㎡	平成28年に計画変更して削除 新市庁舎建設に伴い文化会館の 整備の方向性について建替えを含 めた再検討を行うことになったため 中止	影響なし	-	-
高質空間形成施設	沿道植栽	5	50本	1	11本	事業箇所の見直しによる事業費減	影響なし	●	
高質空間形成施設	2・3条間仲通線整備 (宮下・1条間仲通線)	140	L=120m×2	34	L=120m	事業箇所変更に伴う整備内容の変 更による事業費減	影響なし		●
高質空間形成施設	3条通線整備	88	L=120m	0	L=0m	平成30年に計画変更して削除 沿線地権者の合意が得られず中止	影響なし	-	-
高質空間形成施設	14・15丁目間横通線整備(歩道)	36	L=160m	67	L=160m	再設置予定の設備の更新が必要と なったため事業費増	影響なし	●	
高質空間形成施設	キャノピー整備	737	L=400m	215	L=170m	周辺再開業事業への影響のため 事業費減	影響なし	●	
高次都市施設	市民文化会館改修	777	A=12,400㎡	0	A=0㎡	平成28年に計画変更して削除 新市庁舎建設に伴い文化会館の 整備の方向性について建替えを含 めた再検討を行うことになったため 中止	影響なし	-	-

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	目標 年度	モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	あり	なし	
指標1	買物公園通行量	人	計測地点5箇所を選定、計測し、過去調査結果の傾向から通行量を推計し評価値とする。	177,616	H15	117,591	H26	120,000	H31	モニタリング	H29: 102,585	モニタリング	×	●	●
										事後評価	確定見込み ●	108,160	事後評価		
指標2	都市部居住人口	人	令和元年9月末の住民基本台帳データから当該地人口を抽出し評価値とする。	15,358	H15	15,946	H26	16,200	H31	モニタリング	H29: 16,160	モニタリング	△	-	-
										事後評価	確定見込み ●	16,212	事後評価		
指標3	旭川市民文化会館利用者数	人	例年、年度末に利用者集計を行うことから平成30年度末の数値を準用し評価値とする。	330,582	H15	248,399	H25	270,000	H31	モニタリング	H29: 258,603	モニタリング	△	●	●
										事後評価	確定見込み ●	268,836	事後評価		
指標4										モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価		
指標5										モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	中心市街地の賑わいづくりに大きな貢献をしていた百貨店「旭川西武」が平成28年9月に撤退したことが、その後の買物公園通行量が減少した要因の一つとなっており、徐々に回復基調は見られるが1年以内の数値目標の達成見込みは困難であると判断した。	-
指標2	中心市街地では現在分譲マンションや道営住宅の新築が行われており、市全域での人口減少が進む中、都心部居住人口は目標値に近いところで推移し目標値を達成できた。	-
指標3	目標値に直接関わる市民文化会館改修が中止となったことで目標達成には至らなかったが、文化会館周辺に設定されている文化芸術ゾーン構想とも連動し、本事業によるハード、ソフト両事業の実施効果もあり、今後指標達成が見込まれる。	-
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標		データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)	
			基準年度		基準年度							
その他の数値指標1	歩行者通行量 (イオンモール前: 北→南方向通行量)	人	指標1調査時に同様の方法で計測する。	-		8,150	H29	モニタリング			駅前広場から買物公園を通じた歩行者通行量を確認するため計測する。	指標1を補完する。
								事後評価	確定見込み	●		
その他の数値指標2								モニタリング				
								事後評価	確定見込み			
その他の数値指標3								モニタリング				
								事後評価	確定見込み			

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

旭川駅の南側に整備された北彩都ガーデンは、多くの市民や旭川駅を降り立つ観光客の憩いの場となっており、新たなまちなかの交流の場となっている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
買物公園通行量調査等によるモニタリング	予定どおり実施した	● 【実施時期】平成29年7月～9月 【実施結果】採用した指標について買物公園通行量はH29年実施が確定しており、他の指標については庁内各部資料を用いることでモニタリングを実施することができ、交付期間途中に供用した事業の効果を確認することができた。	買物公園通行量以外の2指標は庁内各部資料を用いることで確認可能なので今後も確認を行っていく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
中心市街地活性化に係る講演会の開催	予定どおり実施した	● 【実施時期】平成29年11月 【実施結果】中心市街地活性化基本計画の説明と合わせ、都市再生整備計画とも係るまちなかでの様々な取組について説明、議論があり200名を超える市民等に対し取組の紹介をすることができた。	今後とも中心市街地でのまちの活性化に係る取組について周知PRを図っていく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
北彩都ガーデンサポーター(市民ボランティア)活動の実施	予定どおり実施した	● ガーデン指定管理者によるスケジュール管理、活動指導のもと、70余名のボランティアが維持管理、案内等の活動を行った。	北彩都ガーデンサポーター	今後ともサポーター自身が楽しみと魅力を感じてもらえるような活動を行っていく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
中心市街地活性化協議会企画推進分科会によるまちづくり活動の実施	予定どおり実施した	● 中心市街地に3エリアを設定。各エリアの委員が中心となり、賑わい創出に資する事業を実施した。	旭川市中心市街地活性化協議会企画推進分科会	今後も各エリアの特色を活かした賑わい創出に資する事業を行っていく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事後評価検討庁内会議	関係各課職員(地域振興課, 土木総務課, 土木建設課, 公園みどり課, 旭川市子ども総合相談センター, 経済交流課, 観光課)	令和元年10月10日	地域振興課(都市再生整備計画事業担当課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2		指標3		指標〇		指標〇	
指標名		都心部居住人口							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路(14・15丁目間横通線整備・車道)	○	計画の整備方針に基づいた事業を進めることで、安心して生活できる都市機能や、賑わいある魅力的な都心空間の創出につながり、市全域の人口減少が進む中、都心部居住人口は目標値を達成することができた。						
	公園(宮前公園整備)	○							
	公園(常磐公園整備)	○							
	地域生活基盤施設(シビックコア広場整備)	○							
	地域生活基盤施設(案内板整備)	○							
	高質空間形成施設(沿道植栽整備)	○							
	高質空間形成施設(宮下・1条間仲通線整備)	○							
	高質空間形成施設(14・15丁目間横通線整備・歩道)	○							
高質空間形成施設(キャノピー整備)	○								
提案事業	総合子ども教育センター整備事業	○							
	オープンカフェ事業	○							
	共通利用駐車場推進事業	○							
	まちゼミ開催事業	○							
	道の駅整備事業	○							
	常磐公園周辺利活用促進調査	○							
	賑わいづくり事業	○							
関連事業	旭川市中心市街地活性化協議会企画推進分科会提案事業	○							

※指標改善への貢献度

◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。

○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。

△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。

一：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	中核都市の都心として都市機能の充実を図ることで、さらに利便性の高い都心部を形成し、居住人口の増加を図る。			
-------	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標3			指標〇			指標〇		
指標名		買物公園通行量			旭川市民文化会館利用者数								
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路(14・15丁目間横通線整備・車道)	—	買物公園の主要な集客施設であった旭川西武が閉店し、通行量は大きく減少した。一方、西武跡地の再開発事業も動き出し、また、地元住民によるまちづくりソフト事業の動きもあり、徐々にではあるが通行量は回復基調となっている。	II	—	市民や観光客の交流や都心部の賑わいにつながる指標だが、文化会館周辺に設定されている文化芸術ゾーンとも連動し、事業によるソフト事業も合わせて一定の効果はあった。	I	—			—		
	公園(宮前公園整備)	△			—								
	公園(常磐公園整備)	△			△								
	地域生活基盤施設(シビックコア広場整備)	—			—								
	地域生活基盤施設(案内板整備)	△			—								
	高質空間形成施設(沿道植栽整備)	—			—								
	高質空間形成施設(宮下・1条間仲通線整備)	△			—								
	高質空間形成施設(14・15丁目間横通線整備・歩道)	—			—								
高質空間形成施設(キャノピー整備)	△	—											
提案事業	総合こども教育センター整備事業	—			—			—			—		
	オープンカフェ事業	△			△								
	共通利用駐車場推進事業	△			△								
	まちゼミ開催事業	△			△								
	道の駅整備事業	—			—								
	常磐公園周辺利活用促進調査	△			△								
賑わいづくり事業	△	—											
関連事業	旭川市中心市街地活性化協議会企画推進分科会提案事業	△			△			△			△		

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 —：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<p>まちの賑わいづくりに資するため、H31.1月より買物公園等の中心市街地に新たに整備される店舗等の固定資産税の優遇制度を開始した。また、買物公園を活用した地域住民・地元商店街が取り組むイベント開催などソフト事業についても支援を行っていく。</p>	<p>文化会館周辺に設定されている文化芸術ゾーンとも連動しながら、今後も事業によるソフト施策等を引き続き展開していく。</p>	
------------------	---	---	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事後評価検討庁内会議	関係各課職員(地域振興課, 土木総務課, 土木建設課, 公園みどり課, 旭川市子ども総合相談センター, 経済交流課, 観光課)	令和元年10月10日	地域振興課(都市再生整備計画事業担当課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
多くの観光客の来街や居住者の増加等, 魅力ある高質な都心空間を形成すること	宮前公園やシビックコア広場の整備等により, 観光客や地域住民が憩うことのできる魅力的な空間が形成された。	—	—
道路のバリアフリー化や案内サイン整備等, 都市部の交通利便性と回遊性の向上を図ること	キャンピ―整備や歩道のバリアフリー化, ロードヒーティング整備等を行うことにより, 都心部の交通利便性と回遊性の向上に繋がった。	—	
市民や観光客の集う交流空間の整備やイベントの開催等, さらに賑わいある都心部を形成すること	観光客の交流拠点となる道の駅整備や, まちなかにおいてまちゼミやガーデンボランティア等のソフト事業を実施したことにより, 人が集う賑わいある都心部の形成に繋がった。	さらに賑わいある都心部とするために, 地域住民が主体となって展開するソフト事業の発展や空き店舗の有効活用等が必要。	
住民が安心して子育てや生活ができるよう都市機能の充実を図ること	子ども総合相談センターを整備したことで, 子育て支援部と教育委員会の相談窓口が統合され, 就学前から就学後までの一貫した相談支援体制が構築された。また, プレイルームや地域活動支援スペース整備により市民の交流環境が増強された。	—	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	魅力ある都心空間の形成	都心部のシンボリックなエリアや北彩都地区に整備した施設を活かして、さらに多くの観光客が来街し、居住者が増加するように、このエリアが魅力ある高質な都心空間であることを積極的にPRしていく。	—
	都市部の交通利便と回遊性の向上	さらに都市部の交通利便性と回遊性の向上を図るため、引き続き道路などのバリアフリー化等の整備を検討する。	・都市部の道路整備 ・集客施設等のバリアフリー化
	安心して子育てや生活ができる都市機能の充実	都心部の居住者を増加させ活力ある都心部を形成するため、住民が安心して子育てや生活ができるよう、整備した施設等を有効活用していく。	—

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	市民、観光客が交流し、賑わいある都市空間の形成	市だけではなく地域や民間団体が主催するイベント等が増加するような支援等の検討や、空き店舗出店等の際の支援等を行い、さらに賑わいある都心部を形成する。	・中心市街地出店促進事業 ・旭川市中心市街地活性化協議会企画推進分科会提案事業

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

- ・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	買物公園通行量	人	117,591	H26	120,000	R1	確定 ●	108,160	△	あり ●	→	—	—	その他の指標1により補完したことから、フォローアップは行わない。
指標2	都市部居住人口	人	15,946	H26	16,200	R1	確定 ●	16,212	○	あり ●	→	—	—	—
指標3	旭川市民文化会館利用者数	人	248,399	H25	270,000	R1	確定 ●	268,836	△	あり ●	→	令和2年10月	旭川市民文化会館の利用者数について管理者へ確認する。	—
指標4							確定			あり	→			
指標5							見込み			なし	→			
その他の数値指標1	歩行者通行量 (イオンモール前: 北→南方向)	人	8,150	H29	/	/	確定 ●	9,045	/	/	→	—	—	—
その他の数値指標2				H	/	/	見込み		/	/	→			
その他の数値指標3				H	/	/	見込み		/	/	→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	あまり高すぎない目標値(都市部居住人口)を設定し、着実な事業展開を進めることで、まちづくりの目標に向けた成果を出すことができた。	目標設定値では指標項目の傾向をしっかりと把握することと、目指すまちづくりをにらみながら設定し、事業内容を吟味する。
	うまくいかなかった点	一部の目標値(買物公園通行量)において、大きな外的要因(旭川西武閉店)が働き、目標を達成するための状況が大きく変化してしまった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	特になし	事業内容を変更することとなった場合、まちづくりの目標達成に向けた事業計画や指標設定の見直しを検討する。
	うまくいかなかった点	目標値(旭川市民文化会館利用者数)に直接貢献する事業(市民文化会館改修)が中止となったことで、目標値の達成に対して大きな効果を上げることができなかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	市民が参加できる、まちづくりに関わるシンポジウムを開催することで、計画の周知や市民意見を聴取することができた。	今後も住民意見を取り入れ、計画作成を行う。
	うまくいかなかった点	特になし	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	特になし	-
	うまくいかなかった点	特になし	
その他	うまくいった点	特になし	-
	うまくいかなかった点	特になし	

添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

-

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市ホームページ	令和元年11月1日 ～令和元年12月 1日	令和元年11月1日 ～令和元年12月 1日	e-mail 郵送 FAX	地域振興部 地域振興課
住民の意見					

(6) 評価懇談会の意見

添付様式8 評価懇談会の意見

委員構成		実施時期	担当部署	懇談会の開催根拠	懇談会の母体組織
学識経験のある委員	大野仰一（東海大学名誉教授）	令和元年11月20日	地域振興部地域振興課	都市再生整備計画事業 評価懇談会開催要綱	独自に開催
その他の委員	佐久間 拓也（旭川商工会議所） 川村祐子（旭川平和通商店街振興組合） 岡坂順子（旭川銀座商店街振興組合）				

意見聴取事項		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる意見	方法書	
	成果の評価	
	実施過程の評価	
	効果発現要因の整理	
	事後評価原案の公表の妥当性	
	その他	
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、懇談会の意見	
今後のまちづくりについての意見	今後のまちづくり方策の作成	
	フォローアップ	
	その他	
	今後のまちづくり方策は妥当か、懇談会の意見	
その他		